

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

考える力はひらめきにつながる 外山 滋比古 (お茶の水女子大学名誉教授)

1. 私が「思考の整理学」を書いてから 36 年になります。この本で私が伝えたかったのはまさに、自分の頭で考える大切さです。学校での教育は、これまで主に知識を身に付けることだとされてきました。その一方で、学校では考えることについてあまり教えてきませんでした。結果として、小学校から大学まで学び続けても、多くの人は「考えたことがほとんどない」のです。
2. このところ AI (人工知能) の発達によって、考えることの重要性は高まっていると思います。知識という点ではどれだけ優秀な人でも AI に太刀打ちできないからです。私は 36 年前に想像力を飛行機になぞらえ、「自分で翔べない人間はコンピューターに仕事を奪われる」と書きましたが、いよいよその傾向が強まっています。「それまでのあり方が役立たなくなる」という意味では、産業革命以来の出来事になります。これからは AI と知識で競うのではないあり方、つまり考えることが大切です。
3. 忘れてならないのは人間は本来、考える力を持っていることです。考える力を養うことはひらめきを得ることにつながります。知識は覚えればすぐに使えますが、ひらめきには結びつきません。自分で考えて、失敗することで、人はひらめき、成功にたどり着くことができるのです。

(参考:「日経ビジネス」2019 年 4 月 15 日号)

経営者のための営業学

スタバ対コメダ (カフェ業界)

1. 米国シアトル発のスターバックスコーヒーと、名古屋発の喫茶店、コメダ珈琲店。この 2 チェーンが今、カフェ業界でのトップの座をめぐって、激しい戦いを繰り広げている。スタバはレジで客が注文するセルフ方式。対してコメダは店員が席で注文を取るフルサービス式、いわば昔ながらの喫茶店文化を引き継ぐ形式だ。
2. スタバは、ハイセンスな雰囲気にはかれて来店する顧客が多い。一方、コメダは肩ひじ張らずに入店できる庶民的な雰囲気が支持されている。ドトールなどの低価格セルフ式カフェはすでに店舗が飽和状態。他方、コメダを代表とするフードメニューが充実し、家族でも楽しめるチェーンは競合が少なく、まだまだ成長の余地がある。

(参考:「週刊東洋経済」: 2019 年 4 月 20 日号)

人事・労務について

働きたいシニア、手放したい企業

1. 働く高齢者が増えている。労働力調査によれば、すでに就業者の 5 人に 1 人は 60 歳以上のシニアだ。彼らの労働意欲は高く、60 歳以上の男女を対象にした内閣府の調査では、現在仕事をしている高齢者の約 4 割が「働けるうちは、いつまでも、働きたい」と回答した。「70 歳くらいまで」、もしくはそれ以上との回答を合計すれば、約 8 割を占める。
2. 一方、企業は、高齢社員を雇い続けることで、給料はもちろん、社会保険料の事業主負担分も増加し、コスト負担が大きくなる。シニアの労働意欲は高く、彼らの働きやすい環境を整えても、肝心の企業はシニアを受け入れる体力がなければ、「生涯現役社会」は実現しないだろう。企業が守れないのは、シニア社員だけではない。大手企業では中高年のリストラが進む。

(参考:「We g d e」2019 年 6 月号)

古典に学ぶ

お金と飲食

(解説) 精神を尊んで物質を卑める東洋古来の風習では、黄金によって友情をまで左右されるのは、人情の墮落を思いやられて甚だ寒心の至りであるが、しかしこういうことが我々の日常によく出会う問題である。例えば親睦会で相集まって飲食する。しかしこれらは皆黄金が関係する。

(参考: 渋沢栄一「論議と算盤」: 国書刊行会)